

名古屋市デジタル学習基盤整備計画＜概要版＞

令和7年3月
名古屋市教育委員会

「ナゴヤ学びのコンパス」とICT環境の関わり

ICT環境が、ナゴヤ学びのコンパスに掲げる三つの重視したい学びの姿

「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」の実現を下支えし、子どもがゆるやかな協働性の中で自律して学び続けることができる姿を目指す

次世代の校務DX環境

- クラウドを活用した校務システム
- 校務系と学習系が1台化された教員用端末
- ロケーションフリーの校務環境

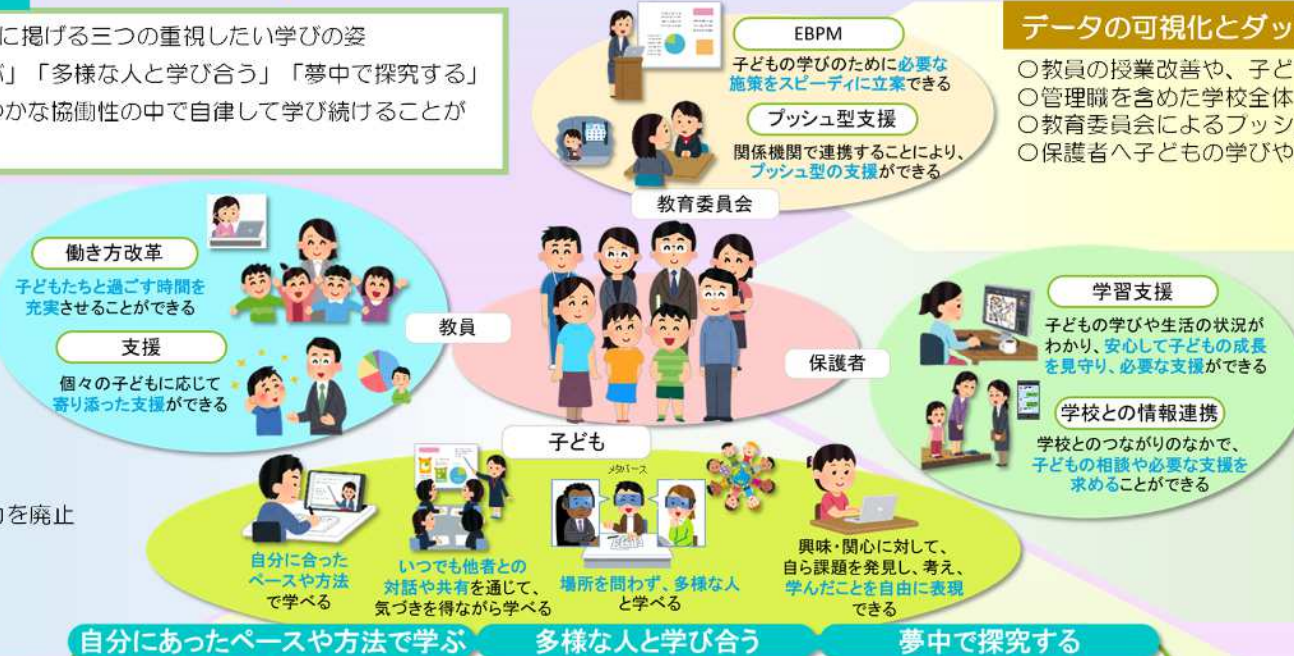
名簿作成時の手入力廃止

- 子どもの名簿作成時、データ取り込みを活用して手入力を廃止

FAXの原則廃止

- 教育委員会と学校間のFAXは原則廃止

GIGA第2期における目指す姿



データの可視化とダッシュボードによる教育データ利活用

- 教員の授業改善や、子ども自身が自分の学びの振り返りに活用
- 管理職を含めた学校全体で共有し、必要な支援の実施
- 教育委員会によるプッシュ型の支援の実施
- 保護者へ子どもの学びや生活の状況について情報提供



子ども・保護者連絡へのクラウド活用

- 欠席や遅刻等の連絡
- 保護者アンケートの回答
- 学校からの配布物の配信

自分にあったペースや方法で学ぶ 多様な人と学び合う 夢中で探究する

ナゴヤ学びのコンパス 重視したい学びの姿

1人1台端末の積極的活用

- ICT活用指導力向上のための教員研修の実施
- ICT支援員の配置
- 教育委員会による支援の実施
- 端末を用いた家庭学習の促進
- デジタル教科書の活用促進



個別最適な学び・協働的な学びの充実

- 自分に合ったペースや方法で学ぶことができるようにするための活用
- 多様な人と学びあうことができるようにするための活用
- 夢中で探究することができるようにするための活用

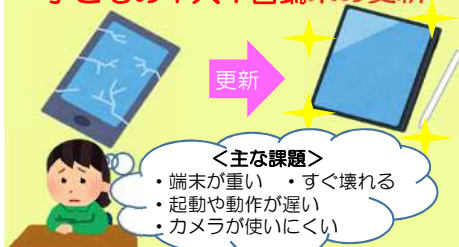


学びの保障

- 子どもの教育相談の実施
- 不登校の子どもへの授業への参加・視聴機会の提供
- 障害のある子どもや病児療養児等、特別な支援を要する子どもの実態等に応じた支援
- 日本語指導が必要な子どもに対する学習活動等の支援



子どもの1人1台端末の更新



GIGA第2期における端末

小学校：iPad
中学校：Google Chromebook
特別支援学校：iPad

ソフトウェア

学習eポータルを中心に再整備



- 学習データを集約してダッシュボード化
- シングルサインオン機能の活用
- 発達段階に応じたソフトウェアの導入

下支え

通信ネットワークの増強



- 学習者用デジタル教科書の活用
- 全国学力・学習状況調査等のCBT化

フルクラウド化

- 管理業務の簡素化
- アプリ間連携の強化
- イニシャルコストの平準化



大型提示装置



- 更新時に上記のいずれかを整備
- 原則60インチ以上、かつ5分未満で授業に使用可能なものを整備
- 学校の実態に応じて可搬型・固定式を検討